

## OUR STRATEGY

## フィールドエンジニアリンググループ

## FIELD SERVICE ENGINEERING BUSINESS GROUP

## 2023年度の振り返り

▶ 保守サービスに関する堅調な需要を受けて、受注・売上・営業利益のいずれも過去最高を更新

▶ 社会システムセグメント等の堅調な需要を背景に、将来にわたるメンテナンスストックが順調に拡大

▶ 半導体製造装置関連事業は成長ペースを維持

## 2024年度以降の展開

## サステナブルなインフラを支えるため、人財育成や課題解決力強化を推進



お客様の「お困りごと」を解決する提案型のコミュニケーション

▶ お客様のBCP意識の向上や保守要員不足、自然災害の多発化、設備延命化ニーズ等により、今後も安定的な需要増加を想定

▶ 安定的な設備稼働のみならず、事業活動における環境負荷低減や省人化対策などの「お困りごと」を解決する提案能力の深化

▶ VR等を活用した高度かつ効率的な教育プログラムによる、技術員の早期育成・スキルアップへの注力

“サステナブルなインフラを支える  
メンテナンスの需要に対応し、  
明電グループの収益基盤を支えています”

専務執行役員  
フィールドエンジニアリンググループ 望月 達樹

## 事業環境

## 機会

- 生産年齢人口の減少等を背景としたメーカーの手による保守サービスの需要拡大
- 企業、自治体等のBCP対応強化による予防保全意識の高まり
- DX推進に伴うスマート保安のニーズ拡大
- 半導体市場の伸長に伴う関連保守サービスの商機の増加

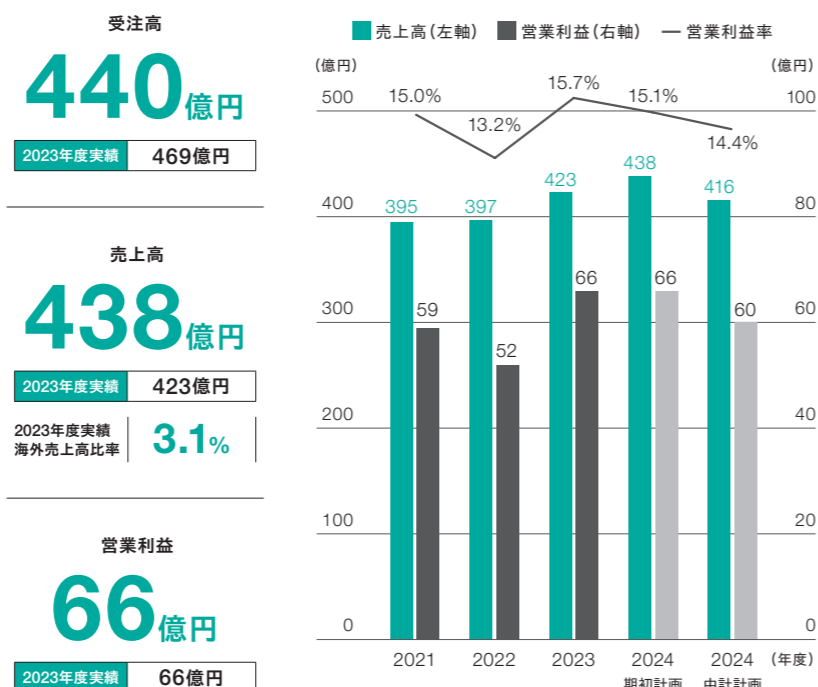
## リスク

- 部材コストや協力会社の人件費等の上昇
- 技術サービス員の確保
- 期待寿命が長い製品の補修に要する部材の一部レガシー化

## 強み

- 製品納入から保守サービスまで一貫したライフサイクルエンジニアリング
- 豊富なメンテナンスストックと保守サービスデータ
- お客様の環境課題の解決等にも資する提案力、技術力及び充実した保守サービス体制

## 2024年度経営目標(期初時点)



## TOPICS

「第1回高専起業家サミット」表彰式の様子

バーチャルで学び、リアルで挑む。  
明電舎の次世代エンジニア育成



## IMPACT 定量的な社会インパクト

明電グループがメンテナンスに従事する現場数

▶ 約 **8,000** か所

人財の獲得と定着が多く企業にとって深刻な課題である現在、明電グループの中でも人財が担う比重がとりわけ大きいフィールドエンジニアリンググループでは、採用・育成強化に重点を置いて取り組んでいます。

2024年3月には、サステナブルな社会づくりを担う若い技術者の挑戦を支援する目的で、起業を目指す高専生が一堂に会してビジネスプランの発表を行う「第1回高専起業家サミット」に協賛しました。今回は起業アイデア50テーマの中から、香川高等専門学校のビジネスプラン「医療DX 患者の急変を数時間以上前に検出する呼吸計測システム」に、明電エンジニアリング賞を贈呈しました。将来を支える若い技術者たちとの交流により、会社と事業に関する理解を深めてもらい、人財獲得にもつなげていきます。

また、人財の早期育成・技術スキルの向上を目指して

2020年に沼津事業所内に開設した技術研修センター「Manabi-ya」は、AR(拡張現実)やVR(仮想現実)システムを活用した体験型の研修施設となっており、毎年20名程度、累計100名弱の技術者が、最新の研修プログラムを効率よく学び、ベテラン社員のノウハウも身に付けつつ、活躍の場を求めて、現場に巣立っています。

今後も、優秀な人財の獲得・育成を通じて、社会に良質な保守・メンテナンスサービスを提供することで、よりよい社会の実現のために貢献していきます。

明電舎  
人事統括本部 人事企画部 人財育成課

内田 幸伸

